

入選

親切の花火

長野県 明善小学校

3年 竹前貴浩

ぼくは夏が大すきです。夏になると、あちらこちらでお祭りがあるからです。そのお祭りではたくさん屋台が出て、かき氷やジュース、おいしい食べ物が並びます。ぼくが住む松本の近くでは、大きな花火大会が毎年開きさされ、すわ湖一面に広がる花火を見るために、早い時間からたくさんの人が車をとめようとちゅう車場をさがします。電車もりん時列車がでます。たくさんの人、食べ物、飲み物があると、ぼくはうれしくなって、わくわくします。

そして、そのときに気をつけていることがあります。それは、花火を見る前に必ずトイレに行くようにすることです。

ぼくがようち園に通っていたころ、この花火大会に行きました。その日はあつかったので、かき氷を2はい食べました。するとすぐ、お腹がいたくなってきました。トイレをさがすのにも時間がかかり、やっと見つけたトイレには、長い列ができていました。いたむお腹と泣きそうなぼくの顔を見て、前の人が「トイレ、お先にどうぞ。」とじゅん番をゆずってくれました。

ぼくは声も出ないくらい痛くて、お腹をかかえていたので深く頭を下げて、その男の人より先にトイレを使わせてもらいました。とてもとてもうれしくて、トイレから出た後、お礼を言いたくて、その男の人をさがしましたが、どの人かわからなくなってしまいました。

どうしてその男の人は、ぼくにトイレを先に行かせてくれたのだろう。自分だっけきっと、早くトイレに行きたかったはずなのに。トイレのれつにならびながら、まわりを見て苦しそうにしているぼくに気づいて、「お先にどうぞ」と言ってくれたのだろうか。そのときのぼくは、苦しくてお礼も言えずにいたのに。その人は、お礼やお返しを求めていたわけじゃなくて、しぜんとぼくに声をかけてくれたのだと思いました。

そのことをきっかけに、ぼくはお祭りのときやデパート、スーパーで長い列ができているときには、まわりをよく見るように心がけています。ぼくより苦しそうな人や、小さな赤ちゃんをつれてる人がいたら、「お先にどうぞ。」と言える大人になりたいと思いました。

あとき、ぼくがかんじたほっとする気持ちがたくさんひろがれば、えがおがふえると思います。ほんのちょっぴりのゆう気を持って、ぼくは今年も花火大会に行きます。花火大会にはきつと、えがおの花火とやさしさの花火がたくさん見られるはずです。

どちらの花火もぼくは、大すきです。そして、やさしい大人になりたいです。